

第4回須賀小学校地域拠点施設検討委員会議録

1 開催日時

令和7年7月1日（火）19:00~21:00

2 開催場所

コミュニティセンター進修館小ホール

3 出席者

（委員）

佐々木誠委員長、森山和弘委員、小澤香保里委員、中村隆委員、上田悟委員、金野泰久委員、谷義明委員、唐松奈津子委員、星野花恵委員、穴戸ゆみ委員、諸星香代子委員、斎藤夏未委員、荒木義雄委員

（事務局：くらし安全課、地域支援課、子育て支援課、教育推進課）

新井庸一 くらし安全課長、柴崎記代子 子育て支援課長、田中啓之 教育推進課長

小林知弘 地域振興課長、小川雅也 教育推進課副課長、高橋道彰 教育推進課主査、堀

内恵介 くらし安全課主査、埜中美也 教育推進課主任、指田瞭 教育推進課主事、矢口

陸 教育推進課主事

（須賀小学校地域拠点施設実施設計業務委託受託業者）

株式会社東畑建築事務所 久保久志、門脇寛子

4 欠席者

（委員）

川野達則委員

5 次第

1 開会

2 委嘱状交付

3 副委員長の選出

4 今後の須賀小学校地域拠点施設整備スケジュール

5 基本設計及び実施設計進捗の報告

6 第3校舎、第4校舎の先行解体に伴う教室、学童保育所の移転

7 意見交換

8 その他

9 閉会

6 議事（要旨）

1. 開会

島村教育長より挨拶。

佐々木委員長より挨拶。

2. 委嘱状交付

島村教育長から森山委員、小澤委員に交付。

3. 副委員長の選出

須賀小学校地域拠点施設整備推進委員会設置要綱第5条の規定に基づき、委員の互選により森山委員を副委員長に選出。

4. 今後の須賀小学校地域拠点施設整備スケジュールについて

事務局：事務局の教育総務担当指田と申します。よろしくお願いいたします。今後の須賀小学校 地域拠点施設整備スケジュールについて説明します。資料は、配布している書類の3枚目A3ヨコのものになります。資料の上半分に、令和8年以降の工事エリアや現場の状況を4ステップに分けて記載しております。下半分については今年から新施設がグランドオープンする令和10年12月までの設計及び工事の事業スケジュールを記載しています。令和7年については、3月から実施設計を株式会社東畑建築事務所に委託しており、12月完了を予定しております。令和8年5月から校舎先行解体工事が始まります。これは、新施設を建てるために必要になるエリアを確保するため、支障となる校舎などを建築工事に先立って解体するものです。解体の対象になる建物は、須賀小学校敷地内の第3校舎、第4校舎、プール、かえで児童クラブです。解体工事の範囲はステップ1の青で網掛けしている範囲です。先行解体が終わった後、令和8年10月から校舎・体育館棟建設工事を施工し始めます。工期は令和10年2月までの17か月とし、令和10年4月から新しい施設の開校を目指しております。校舎・体育館棟建設工事の状況はステップ2のようになります。その後、令和10年5月から残った第1校舎・第2校舎の解体及び小学校体育館の解体改修工事を施工し、更地にします。この期間の工事の状況はステップ3のようになります。令和10年8月から更地になったエリアに校庭や駐車場などの外構工事を施工し、12月完成、令和11年1月グランドオープンを目指します。ここまでは、事業完了までのスケジュールでございます。私から今後の須賀小学校 地域拠点施設整備スケジュールの説明は以上となりますが、質疑などは、ありますでしょうか。

上田委員：図面を見ると工事中、校庭が使えなくなってしまう。運動会が開催できなくなってしまうのではないかと心配だ。

事務局：工事中は今までどおり校庭を使うことはできませんので、選択肢の一つとして須賀小学校児童が須賀中学校の校庭を使用できるよう調整をしております。

佐々木委員長：新しい施設の開校は令和 10 年 4 月の認識でよろしいか。STEP3 の図面は令和 10 年 5 月からと記載してあるが。

事務局：その認識で間違いありません。開校は令和 10 年 4 月、第 1 校舎・第 2 校舎の解体は令和 10 年 5 月から始める予定です。

5. 基本設計及び実施設計進捗の報告

久保氏：株式会社東畑建築事務所の久保と申します。私からまず基本設計の報告をいたします。第 3 回整備推進委員会からの変更点といたしまして特別支援教室にもワークスペースを設けて他の普通教室と同じ設えとしました。これに伴い、メディアセンター 1 の階段教室の位置を少し南側へ移動しました。またメディアセンター 1 の階段教室幅と書架スペースを確保するために家庭科室の平面計上も変更しました。続きまして、通級指導室を図面のとおりに会議室の一部を活用して 2 室追加しました。次の変更点は、校内教育支援センターのスペースを追加しました。これは、教室へ通えない児童のための支援スペースとして設えたものです。通級指導教室と校内教育支援センターの内装の設えについては、教育推進課と今後協議します。続いて、配膳スペースが 2 階にも必要とのことで、2 階エレベータ横に配膳室 2 と 3 を配置しました。交流スペース 1、2 の名称をメディアセンター 3、4 に変更しました。これは学校のメディアセンターが地域の方までひと続きの空間であることが分かりやすくするためです。また、体育器具庫も含めて施設全体の床面積を地方債要件の面積上限に収めるため、体育館の更衣室、器具庫 3 を削除し、学童保育室のトイレと倉庫を入れ替えて倉庫面積を一部削減しました。2 階の倉庫と教材室も一部削減しました。その他として、1 階の多目的ホールの出入口を 1 か所だったものを混雑を避けるため 2 か所設けて、倉庫の位置形状を変更しました。最後に全体調整をしていくなかで、相談室の平面形状を変更しました。細かい変更点もありますが、カラー刷りの平面図から基本設計のアップの平面図まで変更させていただいたところが大きな変更点です。ここから 3 月から 7 月までの間に実施設計が始まり色々進捗しております。大きな話としては、諸室ヒアリングの実施です。実施設計とは何かといいますと、これまでは部屋の大きさ、配置を決めてきたのですが、では、家具はどのような家具を置くか、照明はどのような照明にするか、スイッチはどこにしましょう、コンセントはどれくらい必要ですか、といった細かいことを決めていくのが実施設計になります。そのため、関係者の皆様にヒアリングをかけさせていただいております。直近ですと 6 月 9 日と 10 日に須賀小学校の先生方に諸室ヒアリングをさせていただいた。その内容を逐一反映する状況です。教育推進課でも決めていただく内容もありま

すので、ヒアリングシートをブラッシュアップして7月15日までに再度回答をいただく予定です。本日も午前中から学童保育の支援員さん、お昼からは地域支援課の皆さんにヒアリングを行わせていただきまして、さらに細かい意匠を決めていくところでございます。また、先生方とワークショップをさせていただいて、普通教室周りの設えをどうするか、7月22日メディアセンターについてワークショップをして、さらに細かい話を設計案に取り入れていきたいと思っています。その経緯を経て、皆様のお手元に平面図を配布させていただいております。詳細設計進めていく中で面積削減をさらに40㎡程小さくしなければならないことになりましたので、調整しているところがあります。ヒアリングの上、職員室の一部、メディアセンターの一部、2階部分の収納、倉庫の一部を削減しました。また学童保育所周りも大きな変更をしています。室内用の倉庫は学童の玄関の隣に移動し、室外用の倉庫は階段室の下に設けました。他、変更点はありません。大きな話としては以上です。設計の進捗を三次元的に見ていただきたいので、3D動画を用意しました。

～動画を視聴～

このような形で建築設計は進んでおります。何かご質問あれば、いただければと思います。

佐々木委員長：三次元動画があり、とてもわかりやすい内容でした。皆さんとてもイメージが湧いたと思います。私から質問ですが、基本設計でも話題になっていたセキュリティについて変わったこと、配慮したことはありますか。

久保氏：一番大きなセキュリティとしては、地域と学校との境界線上に事務スペース設けさせていただいて、常に人がいる状態にしていること、地域と学校の扉はガラスにして、常に見えている状態にしている。もし放課後、土日に学校開放する場合でも、階段（活動室1の隣）を上に登れないような壁を設けています。これにより一般の方が学校に入れないようにしています。メディアセンター1の階段は幅が大きく、壁は階段を上った先に壁を設けており、これにより教室エリアに入れないようにしています。扉を電気錠にするかカード式にするかは検討中です。地域側が学校に入れないセキュリティはしっかりしています。あとは学校側がどこまで地域に入るか、それはこれからの運用の議論だと思います。

佐々木委員長：ありがとうございます。皆様、他にご意見ありますでしょうか。

唐松委員：更衣室は地域の方使うものと思っていたが、削られているのは。

久保氏：先生方とヒアリングしたときに、先生方の目の届かない所に更衣室を置きたくないという意見から、学校からニーズがなく、優先順位から削らせていただいた。

唐松委員：トイレの数を減らすというのは。

久保氏：利用者数を考えると減らすことはできない。

唐松委員：地域の方々のヒアリングをする予定は。

久保氏：すでにワークショップで意見は聞いているので、個別に必要ということであれば、やってもよいと思います。

佐々木委員長：メディアセンター3、4周辺のエリアは和戸公民館の機能を移す認識でよろしいでしょうか。

久保氏：基本はそうですが、今回は学校と地域が交流できること、部屋を借りなくても立ち寄れるゾーンは和戸公民館とは違うところです。貸出するのは、活動室1、2と多目的ホールで、活動室1、2は隣同士なので、壁は可動間地切りとし、イベントがあれば開放することもできる。

佐々木委員長：和戸公民館の面積とは同じくらいでしょうか。

久保氏：大体同じくらいです。

宍戸委員：卓球は多目的ホールでできるのか。

久保氏：軽運動できる部屋は多目的ホールになります。

宍戸委員：セキュリティについて、校庭はオープンになるのか。

久保氏：校庭についても扉や防球ネットなどで必要なセキュリティは設けていますが、今後の運用を考える点があります。

宍戸委員：先生方とのヒアリングの中で不安な意見はあったか。

久保氏：不安な意見はなかったが、今遠くにある畑を敷地内に小学校敷地に持ってきてほしい意見はありましたので、位置の検討をしています。

宍戸委員：バスの乗り入れ場所がありますか。

久保氏：敷地内にできる駐車場を使うか、小学校体育館解体後の駐車場を使用できます。

金野委員：予測できない雷雨の際は児童を教室に待機し、お迎えを呼んでいる。メディアセンター1には児童は何人待機できるのか。

久保氏：1学年程度です。ですので、雷雨による待機は、各教室か地域のメディアセンターに待機することも考えられます。

金野委員：職員は2階を通らず1階を通して体育館に行けるのか。

久保氏：可能です。むしろそのための施設なので、地域、学童の了承を得て通れるようにすべきだと思います。

6. 第3校舎、第4校舎先行解体に伴う教室、学童保育所の移転

事務局：第3校舎・第4校舎先行解体に伴う教室、学童保育所の移転について説明します。

資料は、配布している書類の最後のA3になります。次第4の整備スケジュールでも触れましたが、令和8年5月から第3校舎・第4校舎の先行解体工事が始まる予定です。これに伴い、第3校舎、第4校舎にある小学校施設（教室、職員室、理科室及び音楽室等）については残った第1校舎・第2校舎に移転し、学童保育

所（かえで児童クラブ）は須賀中学校に一時移転する計画で協議しています。移転期間は新施設が完成する令和10年3月までの予定です。移転は令和7年度中に完了する移転スケジュールについてですが、現在移転先との協議、移転に伴う見積・設計作業を行っております。移転のための須賀小学校、須賀中学校の改修工事は11月ごろに発注し、年度末までに、移転を完了する予定です。私から、第3校舎・第4校舎先行解体に伴う教室、学童保育所の移転についての説明は以上となりますが、質疑などは、ありますでしょうか。

上田委員：令和8年度から解体が始まるということは、令和7年度からその準備をしなければならない。先生方にとって一大行事だと思います。国納に若いが多く転入してくて来て、手を貸してくれる声も聞いている。皆さんも手を貸しましょうよ、ということをお場で私は言いたい。

金野委員：ありがとうございます。暖かい地域の方の言葉をいただきながら、学校でできること、お手伝いいただきたいことを整理しながら、逆算で仕事をしていく悩みありますが、ご協力いただけるお気持ちはありがたいです。

穴戸委員：地域のお手伝いということであれば、どんぴ応援隊の人がおりますので、声をかけていただければと思います。また、工事のためカヤの木を切る、校舎を壊すときはメモリアル的なものに参加したいなと思っていますので、アイデア出しからでも構わないですし、アイデアは学校が出して、イベントするための手が欲しいときは声をかけてほしいです。町民まつりの8月23日（土）に部屋をひとつお借りしているので顔はめパネルと模型を置いて、小学校の進捗を広報してもよいと思います。

7. 意見交換

佐々木委員長：新しい校舎ができる令和10年までに、どんぴ応援隊の活動の方針はありますか。この活動が今後の地区コミュニティセンターの役割にも繋がってくるのではと思いますがいかがでしょうか。

穴戸委員：内海さんに入っていて、意見を出し合った経緯があり、ハードとソフト両方から良い小学校を作ろうと活動してきた。今までは須賀小学校を建て替えることを知らない人に対し周知活動を主にやってきました。今はセキュリティの話もあるが、地域の人々が協力しつつ児童も地域に入れるような、地域の人々が子供たちに良い影響を与えられる人にならなきゃという考えから、担い手の一つとしてどんぴ応援隊がある。子どもを守りたいし、いろんな体験をしてほしい、そんな地域と混ざり合うような夢を描いています。

佐々木委員長：ありがとうございます。どんぴ応援隊の活動と小学校との運営の話をしたと思いますが、地域支援課さん、いかがでしょうか。

小林課長：地区コミュニティセンターの形で開設が決まったということで、今年度から地域支援課ができ、事務所も進修館に移りました。この進修館に移ったことが大きくて、もともと進修館はコミュニティセンターで、その2か所目として、和戸公民館から規模を広げて地区コミュニティセンターになる。そうすると進修館の使われ方がポイントになってくると思っています。進修館はご存じのとおり、様々な人、活動、交流が行われていて、須賀小学校のお手本になると思う。どんぴ応援隊や、自治会など地域の方々に使われるような施設にするため、今自分らは何をすればよいか考えているところです。

佐々木委員長：必要であればワークショップし開催した方が良いと声が出ていますが、いかがでしょうか。

小林課長：様々な方の声は聴きたいと思っています。どんな場所、形でというのはこれから考えるのですが、できるだけ多くの方と触れ合いながら使い方を考えていきたいですし、何ができるのかというのも、その中で見つけていきたいです。

佐々木委員長：関連して東畑さん、何かイメージがあれば教えてください。

久保氏：先ほどの話は地域支援課さんともすでにお話しさせていただいていて、内海さんも引き続きサポートはしていただき、使い方のワークショップをしたいと考えております。工事期間中も、伐採した木の話がありましたけれども、その木を使って何か家具を作ったりだとか、建物を作る上で壁をみんなで塗装したりタイルを貼ったり、そういった企画から参画させていただけると、開校まで盛り上がりを維持していけると思います。

佐々木委員長：他に皆さんご意見ありますでしょうか。

唐松委員：工事中、駐車場の出入りについて児童の安全面は考えられてますでしょうか。

久保氏：児童が安全に登校できるよう、校舎に入る道路には工事車両は極力入らないようにし、工事車両は大通りから入るようにします。もし必要であれば臨時的にプール側から入ることもあります。

佐々木委員長：児童の安全には配慮していただきたいところです。中学校関連で何か話したいことはありますでしょうか。

谷委 員：工事期間中の校庭のシェアの話ですが、体育の授業は何とかなると思います。心配なのは放課後の部活動と学童の使い方が心配で考えていかなければならないです。

佐々木委員長：PTAの小澤様はいかがでしょう。

小澤委員：学童は中学校のどの教室に移転するのでしょうか。

事務局：1階の美術室と金工室の2部屋を学童保育所に貸していただける予定です。中学生と学童の動線が重ならない配置になっております。

佐々木委員長：諸星先生いかがでしょう。

諸星委員：中学校の美術室と金工室はすでに見学させていただいた。部屋は広いが古い部

屋なので柵にささくれがあったり、子どもが悪戯しやすい場所にコンセントが沢山あるのでその対策を学童が安全に過ごせるよう子育て支援課を通じてお願いしています。

佐々木委員長：ありがとうございます。

星野委員：設計のところで、小さい子が入れるようなところは設けられているのでしょうか。

久保氏：今後の運用の話だと思いますが、例えばメディアセンター4は、落ち着いた所で多目的便所や授乳室があり、今はフローリング、書架、テーブルがある状態ですが、小さい子でも使えるような設えにできます。また、中学校側に扉があるので、ここから庭を使ってもらって、未就学児の子どもでも使えるようにしています。

星野委員：工事中の2年間は児童の思い出に残る2年間にしたい。校舎を解体したり、木を伐採するタイミングで是非日工大生にも関わっていただいて、以前教育委員会の催し物でパレットを作っていただいたりもしたので、今回も「これは須賀小学校の木で作ったパレットだよ」とできたらいいなと思います。芸術祭にも関わっていただいたりすると町との関わりが持てたりするので、町民の皆様にも周知できると思います。中学校に通っている生徒さんもこの活動に関わっていただけると良いなと思います。

佐々木委員長：素晴らしいご意見だと思います。しかし誰が主催すればよいのでしょうか。

星野委員：町が行っている事業に合わせて活動してほしい。どの活動をするにもお金がネックになってしまう。印刷物一つにしても町では印刷は難しかったりするので。

佐々木委員長：町よりも市民が主催の方が良いと思います。地域の方々に自由になれますし、大学もお金を出すことはできないですが、印刷物くらい大学も協力できますし、木工サークルの力を貸したりだとか、道具を貸したりだとか、色んな形で関わる事ができると思います。

森山委員：新しく学校を建築して、仮に児童が増えた場合どうなるのか。また施設に地域の人たちが入りイベントの開催等が考えられるが、児童が授業に集中できるのか心配である。

久保氏：子どもが増えたときは、多目的教室を2か所用意していますので、これを普通教室に使えます。

森山委員：私が小学校4年生のとき、児童数が大きく増えたため笠原小学校ができた。今回の新築で、近隣から児童が流れてくることを心配している。

事務局：推計では、近い将来に単学級になる予定ですし、すでに1年生が単学級で1教室空きになります。森山さんのお話の時期は桃山台や宮代台といった大規模な宅地開発があって児童数が増えたが、今の須賀エリアについては大規模な開発ができないエリアですので、大きく増えることはないです。ただし、宮代町は自由選

択制ですので、町内の他地区から須賀小学校に入学希望が多くあった場合、調整することが考えられます。

久保氏：地域の方がどのタイミングで学校エリアを使えるようにしていくか、放課後を開放するか、土日を開放するか、セキュリティ上必要な壁は設けていますので、あとは運用の仕方だと思います。

佐々木委員長：中村委員いかがでしょうか。

中村委員：和戸公民館で地区の総会を行ったが、去年は折り畳み椅子 100 名分、役員の分が 20 名分で和室がいっぱいになる。和戸公民館は敬老会のイベントもあり、和戸地区に 75 歳以上が 660 名いて、300 名以上が参加される。一度に 150 名から 160 名が和戸公民館にくるのですが、多目的ホールの収用人数を知りたいです。

久保氏：多目的ホールは折り畳み椅子で 200 人入ります。300 人は厳しいです。中庭にも面しており、扉を開ければそちらも使えます。

中村委員：水回り、ガス関係はどのような設計ですか。

久保氏：メディアセンター 3 にアイランドキッチンのような給湯スペースがあります。他にも管理者が使える給湯室を別に用意しています。また、学校開放するときには家庭科室も使えます。家庭室中央の机は可動式なので、様々なイベントにあわせてレイアウトを変えることができます。

荒木委員：防災上の活用方法、その具体的な案はありますか。

久保氏：防災機能としては、ハザードマップでは浸水区域 0.5m 以下なので、新施設も地盤面から 0.5m 上げて建築予定です。また収用人数としては、体育館は 450 人程です。多目的ホール、活動室 1、2 も活用して、多くの方が避難できるようにしています。

佐々木委員長：ありがとうございます。他に発言はありますか。

斎藤委員：認知活動について、まだまだ建て替えのプロジェクトについて知らない人が多いと思います。反対に県外の方だが、宮代に良い印象をもってくれている人もいます。そういった方々に広報できれば、転入につながれば人口が増えます。大きな開発は難しいとのことですが、和戸地区の人が転出しないよう、どんぴ応援隊だけでなく、自分事として町全体として、巻き込んでいきたい。私が思うに星野さんと CCC というゴミ拾い活動をして、毎月開催して 2 年目になりますが 20～30 人程集まってくれる。和戸地域ではまだ一回もやったことはないの、自転車置き場の一部を拠点にして、ごみ拾いをする。それを SNS で発信していけたらいいなと思います。ご提案です。

佐々木委員長：人口増にもつながる SNS 発信できるのではないかというご提案ですが、その活動をすでに実践されているので、ぜひ建設期間中も盛り上がっていければいいなと思います。ご発言ありがとうございます。

8. その他

事務局：次回の開催日のご連絡です、次回は9月もしくは10月頃の開催を予定しております。通知を送付しますので是非ご参加ください。

9. 閉会